

はじめに、ご挨拶を申し上げます。この日に心から感謝しております。また、そのご遺族の方にも感謝しております。おかげさまでございました。

解剖実習の初日、私はご遺体へ敬意を払い、その白いカバーを取ってご遺体と対面した際には、ご遺体の白い褥が私の目に視界に入りました。その時、この方がこの前まではご存命であり、ここにふと立ち止まられました。私は、いかに解剖実習が始まると改めて実感し、一年生の頃より多くのことを学ぶとともに、他人に教えられる機会も得られると決めたこと。そして、私にこのご遺体には、心から感謝しております。自分では、この方、この教科書とご遺体との誓いを閉じられたらどうかと存じます。私は、この四半間で医学についてたくさん学んでまいりましたが、それは先人たちが築きあげたものを拝借したことで、自分自身は医学の発展に何一つ貢献できていないことを感じました。そこで、この方への遺言として、医療人として、医学の志を背負ったことを社会に伝えることを誓いました。

今日のこの臨床解剖実習を迎えるにあたり、心に決めていたことがありました。それは、この解剖に1.2倍の知識を、この方への志者さんへどう反映していかなくては。志者さんには、医学に精通していただくことが何となく思っていたので、この方への志者さんには、この方への敬意を込めて、この方への解剖をしようとした。一年生の頃、解剖では、実習で得られた知識をどこかへ吸収しようとは必要でした。しかし、四年生になると、ある程度医学の知識が増え、実習に心の余裕ができてきました。実習中に先生が、ここに神経があらから気をつけて手術をしてほしいと仰ったことは、身に留められた解剖をしようとした。そうすることで、この方への手術の舞台に立ち、その慎重さを活かせると思ひ、解剖中は実際に手術をしていく気持ちでいました。と、この方への解剖も、名称の付定に時間を要していたが、一つ一つの丁寧に見ていくと、一年生の頃の知識が驚きで感じることもありました。

次に、今日のこのご遺体は、私にこの二日と三日の先生であり、志者さんでもありました。解剖中に、もしご存命であれば、この方への声をお聞きしたいと存じます。四年生には、疾患や治療法について、志者さんへの誓いを学んだので、頭の中にいろんなイメージが思い浮かびました。そして、この臨床解剖実習について、ご遺体では、教科書や手術の動画を拝見したとしたり、理解の深さが変わっていくと感じました。ご遺体の中には、疾患や手術の方も分かれ、一人一人少々の準備をしてくれ、教科書や動画で学べたこともたくさんあるように思っています。実際に解剖をしていくと、この方への心もつたことあり、ご遺体からたくさんのご恩を受けて頂いたので、私の先生であり、再認識させられました。おかげさまでございました。

今日のこの実習では、たくさんの方々に、この機会を提供して下さり、先生方、ご遺族の方々に、この実習に携わって下さり、本当にありがとうございました。